第３分科会　第２会場

「安心して住み続けられる
まちづくりのとりくみ」

ホテルグランヴィア岡山　４Ｆフェニックス(A)

演題番号　3－2－1

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
宮城	仙台南健康友の会	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
平尾（ヒラオ）　伸二（シンジ）	事務局長	第３分科会

発表テーマ
利用者から喜ばれ、活動の輪が広がる助け合いの会

内容（発言要旨）

仙台南健康友の会では、2021年５月より「助け合いの会」活動を開始しました。

活動内容は草取り・剪定が多数です。患者の退院先の環境整備、院内での患者の付き添い、ベッドの移動・組み立て、ゴミ出し、家電の取り付けなど、様々な依頼があります。長町病院の職員を通じての依頼もあります。

利用者からは大変喜ばれています。ボランティアからも「利用者が喜ぶのを見ると本当にうれしくなる」「コロナで引きこもり気味だったが、ボランティアに参加して前向きになった」などの感想が寄せられています。ボランティアは友の会だよりや口コミ、ボランティアセンターなどを通じて参加がひろがっています。

利用者・ボランティアの輪を広げながら、今後とも地域の困っている方々に寄り添った活動を強めていきます。将来的には有償運送事業などにも取り組んでいきたいと考えています。そのためにも、他県の経験に学びながらNPO法人取得の検討を進めていきたいと思います。

所属している組織の概要	
活動地域は仙台市太白・若林区・名取市など。構成員数は約4,100人。	
TEL 022-248-6702	メール hirao55@zmkk.org

演題番号　3－2－2

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
岡山	倉敷医療生活協同組合	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
竹島（タケシマ）　智子（トモコ）	非常勤理事	第３分科会

発表テーマ
ご近所のちょっと困ったの助け合い「ちどり助け愛たい」の紹介

内容（発言要旨）

１、結成まで。2017年水島周辺のサロンに通う65歳以上方へ暮らしのアンケートを実施。結果、ちょっとした困りごとが上位を占めた。そこでご近所のちょっと困ったの助け合いを行うことになった。

２、ちどり助け愛たいの構成と運営。ちょこっと隊（支援をする人）・ありがたい（支援を希望する人）・町内会長・愛育委員・社会福祉協議会・高齢者支援センター・医療生協などで構成し　毎月会議を行い、近所の困りごと発見・支援状況・学習会などしている。利用方法は利用する人が１枚150円15分の回数券を買い、支援してもらった方にお礼として回数券を渡し、コーディネーターがお金と引き換える。

３，支援の紹介　Ａさんの支援はゴミ出し。困っているところをちょこっと隊が見かねて高齢者支援センターの方と一緒に訪問し支援につながった。日ごろからちょこっと隊が気にかけていた。Ｂさんは介護サービスの利用が日曜日だけ調整できずちょこっと隊が見守りをした。介護サービスの隙間の支援ができた。Ｃさんは社会福祉協議会を通して家の片付けを手伝ってほしいと依頼あり、週１短時間の片付けを手伝っている。近所に助けてくれる人がいると言われ社会とのつながりができた。

４，まとめ①毎月の会議がキーワード。ちょこっと隊の見守りがあり困りごとに早めに対応できる。助け合いで対応できないことは、高齢者支援センター、社会福祉協議会の方が構成メンバーのため公的な支援につながる。②回数券を利用することで頼みやすい。③ご近所のためゆるやかなつながりも大事。

所属している組織の概要	
岡山県倉敷市水島西ちどり町ちどり団地周辺。活動地域の人口は約4000人。内組合員の人数は1429人。	
TEL 080-6305-1804	メール kanon0304tomoko@gmail.com

演題番号　3－2－3

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
東京	健和友の会みさと健和団地診療所支部	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
松澤（マツザワ）　亘代（ノブヨ）	友の会ボランティア班長	第３分科会

発表テーマ
高齢化の進む大団地の一人暮らし高齢者の支え合い・助け合い活動の29年

内容（発言要旨）

１.「毎日毎日何もすることがない。寂しくて死にたい」呼び寄せ老人＜高齢者＞の声を聴く
診療所看護師と友の会役員が一人暮らしの患者さんを訪問
深刻な状況が明らかになる―　日中ひとり・閉じこもり・話すご近所さんがいない
とにかく楽しめる、美味しい企画を／お花見会・茶話会など－友の会の協力で開催
往診中の患者さんの「孤独死」―団地内で「孤独死」が頻発
２．1996年８月、2002年８月「高齢者の生活実態調査」実施・・・調査結果はその後の状況を示唆
今は（当時）元気な高齢者が多い／一人生活者＜人数的＞多く／団地の全域に広がっている
近所の付き合いが希薄である／生活関係が＜自己完結的＞／意識されない「孤立」
３.「知り合って、助け合って」・・・自主組織として『一人暮らしたんぽぽの会』1996年４月発足
一人暮らしは気楽ですが不安とたたかう生活です
知り合うことが事のはじまり
助けあうことができるよう　仲間づくりをしていきましょう
４会員は、仲間や誰かにいつも見守られている
住まい地域ごとに「世話人さん」がいる―　月３回以上の“お元気確認”
地域に「一人暮らしの会」が知れている―包括支援Ｓ、介護事業所、病院・医師からの紹介
緊急時連絡先の把握―　気になる会員、認知症の会員などのサポート活動へ
５.「一人暮らしの高齢者」を支える「友の会・ボランティア班」のかかわり
会場設営、送迎、会食調理、傾聴／会員の生活アンケート（隔年実施）
生活支援の助言、団地生活で遭遇する困難事例、災害時に備え等など
「会員のつながりマップ」づくり　→支え合い・助け合いのマップに
６．住み慣れた地域で、最後まで安心して暮らせる「安心の地域ケア」が此処にはある

所属している組織の概要	
活動地域は、埼玉県三郷市。活動地域の人口は約14万人。所属する共同組織の人数は約14000人。	
TEL 048-958-3852	メール a-ishigami@totokyogikai.jp

演題番号　3－2－4

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
大阪	医療福祉生活協同組合おおさか	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
野口（ノグチ）　桂子（ケイコ）	赤川 ヘルパーステーション	第３分科会

発表テーマ
支部活動を中心とした助け合い

内容（発言要旨）

助け合いの会は「いつまでも安心して住み慣れた地域で暮らしたい」「ちょっとの手助けがあれば自立して生活できるのに」そんな組合員の声から始まりました。旭区のあかがわ診地区では支部活動の一環として各支部長が中心となり月に一回の役員会を実施して事例検討等をしています。助け合いの会を通じて組合員同士の繋がりも広がっているように思います。日々の生活の中で今までは一人で出来ていた事ができずどうしようと思っていたが「チョコっとさん」ができたことで、気兼ねなく利用出来て助かっていると喜ばれている組合員さんも少しずつですが増えています。「チョコっとさん」の支援をきっかけに介護保険や医療に繋げた事で安心安全な生活を過ごされている方もおられます。介護保険で訪問ヘルパーを利用されている組合員さんも多くおられます。でも決まり事が多く時間不足や出来ない事があると、訪問しているヘルパーさんからの報告が時々あります。「チョコっとさん」を利用してもらったらとの提案でコーディネーターが訪問して面談させていただきました。鳥かごの掃除、鳥の餌の購入、ベランダの片付け、引っ越しの準備片付け、お墓参り、押し入れの片付け、粗大ごみ回収の手伝いなど希望される事が多々あるのです。訪問しているヘルパーさんにも活動会員になってもらい空き時間に協力してもらっています。全盲の組合員宅に月に一度支援でしたが回数を重ねることで通院介助の支援も希望されるようになりました。年に一度の総会も実施しています。まだまだ問題点や課題はあると思いますが組合員の相互信頼のもとで助け合いの活動が実施され組合員さんの身近な存在になるよう努力したいと思っています。

所属している組織の概要	
活動地域は、大阪府大阪市旭区。活動地域の人口は約９万人。所属する共同組織の人数は約30人。	
TEL 070-5458-6705	メール akashin3008@gmail.com

演題番号　3－2－5

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
岡山	倉敷医療生活協同組合	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
猶原（ナオハラ）　眞弓（マユミ）	給食サービス ボランティア活動組合員	第３分科会

発表テーマ
給食サービスボランティア活動について

内容（発言要旨）

○助け合い活動の原点…くらしを知り、私の困ったの共有化
○給食サービスボランティアの始まりについて…一人の独居男性入院患者との出会い
○給食サービスボランティア活動の歩みと活動の広がり
○給食サービスボランティア活動を通じて見えてきたこと、そしてこれから

所属している組織の概要	
倉敷医療生協は、岡山県西北部を活動エリアとする組合員約63,000人の組織です。「給食サービスボランティア活動」は、倉敷市の南部水島地区で取り組まれている活動です。	
TEL 086-448-3369	メール tooya_t@kura-hcu.jp

演題番号　3－2－6

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
東京	八王子・たま健康友の会八王子支部	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
村井（ムライ）　良一（リョウイチ）	健康友の会八王子支部 事務局長	第３分科会

発表テーマ
会員同士の助けあい「送迎ボランティア」として見えてきたこと

内容（発言要旨）

会員同士の助けあい「送迎」を2012年７月にはじめて12年になろうとしています。「とても助かります」といつも喜ばれ、ドアツードアで、多くの会員さんたちと関わってきました。障害があり、車の乗り降りも大変な方、独居や高齢の二人住まいの方など、最近は通院に苦労する様子も増えて来ました。そんな中で患者さんだけでなく、家族の大変さです。Ａさんは、がっしりした大きな体格の方で半身マヒがあります。しかしＡさんは、自力でやりたいという思いが強い（と思われる）。車に乗り込むにも支えになる場所やものを指示してゆっくり動く。時間がかかる。運転手と介助の２人がかりで移動する。そばで妻は見守る、車から降りる、エレベーターに乗る、診察室に移動する、どの動作も大変です。でもそれは時間をかけて介助があれば何とかなりました。気になったのは、Ａさんを見守り続ける家族、特に妻の大変さです。顔は明らかに疲労困憊、青ざめてみえました。患者さんだけでなく、その家族の生活も気にかける必要を強く感じました。この会員さんは、歯科の患者さんで、早速、訪問診療に切り替えていただきましたが、家族特に妻への関りをどうするか今後の課題です。

所属している組織の概要	
活動地域は、東京都八王子市にある３つの支部の一つ、八王子の長房地域、西部地域を除く市の中心から南北東の人口約40万人位。会員数は2400人。	
TEL 090-1804-0919	メール hachi-tama@t-kenseikai.jp

演題番号　3－2－7

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
東京	葛飾健康友の会	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
谷澤（ヤザワ）　雅子（マサコ）	事務局	第３分科会

発表テーマ
四ツ木診療所と連携し、よつぎサロンの利用を開始したＴさんの事例

内容（発言要旨）

葛飾健康友の会は、四ツ木診療所と連携し、健康増進の取り組み、「よつぎサロン」「保健学校」「歩こう会」を実施し、趣味のサークル活動は「そば打ち」「書道」「カラオケ」を運営しています。よつぎサロンは「雑誌：はるめく」で有名な「きくち体操」を取り入れた運動を中心に、レク・脳トレを実施。よつぎサロン利用者のＴさんの事例を通して活動を紹介します。Ｔさんは、同居していた妹さんをコロナ感染症で急に亡くしました。一人暮らしになり、不安と孤独のなかで、とても落ち込んでいました。受診した四ツ木診療所の看護師が、Ｔさんの状況を知りよつぎサロンを紹介。友の会の担当者が面談したところ、精神的な落ち込み、難聴、歩行不安定な状態で、サポートが必要な状態でした。友の会の会員で協力し、会場までの送迎や聞こえにくそうな場面で声掛けするなどを行いました。利用開始時は一人では会場に来ることができなかったＴさんでしたが、３月からは心身の状態が安定し、ひとりで参加できるようになりました。Ｔさんの事例では、コロナ感染で大切な家族を突然喪い、悲しみや不安の中でつらい思いをしている方を四ツ木診療所が発見し、仲間づくり・健康づくりを行っているよつぎサロンで受け止め、笑顔と健康を取り戻すことができました。今後も診療所との連携を更に強化し、困難を抱えるひとり一人に寄り添った活動を継続していきたいと思います。

所属している組織の概要	
葛飾区は人口46万。高齢化率24.3%。葛飾健康友の会は会員数632名。活動圏域は、医療法人財団健和会・四ツ木診療所の診療圏の立石と四つ木地区	
TEL 03-3694-1661	メール masako-00150@totokyogikai.jp

演題番号　3－2－8

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
大阪	大阪きづがわ医療福祉生活協同組合 訪問看護ステーションさくら通り	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
伊東（イトウ）　美紀（ミキ）	看護師	第３分科会

発表テーマ
「家族の会　つなぐ」　結成までとこれから～

内容（発言要旨）

【序論】当訪問看護ステーションでは以前よりグリーフケアとして、遺族訪問を不定期に実施していた。機関紙でその記事を見た介護中の妻より、当事者に会いたいと訪問看護師に相談があった。職員間で、他にも在宅看取りされたご家族がいるので、みんなで集まったらどうかとアイデアが浮かび、第１回目を開催した。【本論】初めて会ったと思えないほど皆さんが打ち解けられ、やはり経験したもの同士でないと分かり合えないこともあるんだなと話が弾み、第２回目以降につながった。その後も四季の行事等、イベントを通し楽しまれ、第５回目まで続いている。現在、地域の繋がりが薄れ、大切な人を失った悲しみを癒す場が減っている。この会が、その役割を担うことを期待する。【結論】つなぐ会員が主体となって、継続できることを目標に、今後も遺族と会をつなぐ役割として訪問看護がサポートしていく。

所属している組織の概要	
活動地域は、大阪府大阪市の港エリア。訪問看護ステーションさくら通りでは、隣接するみなと生協診療所と連携し、在宅医療を展開しています。また、西成・大正にサテライトの事業所もあるので様々な地域での対応が可能です。「断らない」を理念として、利用者さん・ご家族に寄り添う訪問看護を提供しています。	
TEL 06-6571-8585	メール ito.aymk@gmail.com

演題番号　3－2－9

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
岡山	岡山医療生活協同組合	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
國塩（クニシオ）　ゆり	介護事業部 訪問看護ステーション さくらんぼ・副主任	第３分科会

発表テーマ
利用者・利用者家族の思いを聞き、その人らしく生きることを学ぶ

内容（発言要旨）

訪問看護利用中の利用者で90歳代後半の女性です。（以降Ｍ氏）主病名は腎不全末期で次男と２人暮らしです。次男は治療院を経営しており日中不在です。Ｍ氏にはあと２人の子供がいますが、県外在住です。

母親のために家族が団結し、交代で介護をされています。徐々に全身の浮腫がみられ、喘鳴の出現と余命長くないと主治医にいわれました。しかし、何度も持ち直し、好きなカツカレーにお寿司、うどんを食べに外食をしました。花見をしに家族で外出もされました。家族は寝たきりにさせないように。自分でしたいという思いを聞いていました。Ｍ氏は体調がいい日は歌を歌い、笑顔で話をされました。

家族の介護に合わせて１日１回から３回に訪問看護の回数を調整し、自宅でＭ氏が生活できるようにサポートをした経過と訪問看護師として利用者と家族との関りで学んだことを振り返りたいと思います。

所属している組織の概要	
活動地域は、岡山県岡山市。活動地域の人口は約71万人。所属する共同組織の人数は約700人。	
TEL 086-276-5599	メール kunishio@mb.okaky.or.jp

演題番号　3－2－10

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
宮城	長町病院（仙台南健康友の会）	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
福岡（フクオカ）　祥子（ショウコ）	作業療法士（事務局次長）	第３分科会

発表テーマ
作業療法士として友の会事務局を担当して

内容（発言要旨）

仙台南健康友の会（長町病院・地域健康課）に配属された作業療法士が、友の会の事務局として関わってきた活動内容と、リハビリ職が共同組織の中で活動してきた中で感じたことを紹介します。

活動内容は、事務局としての業務（会費などの管理、班会業務・告知、班会参加・講師担当・財政活動など）はもちろん、病院職員の友の会行事への促し、他部署との連絡調整などが主になっています。

作業療法士（リハビリ職）が友の会で活動して感じたことが３点あります。

１つ目は、介護予防の視点で自分の得意とする分野をいかせることです。友の会には活動性の高い方も多く、元気なイメージがあります。しかし、そうではない方も多くおられ、フレイル予防（体力予防・認知症予防）活動は重要です。

２つ目は、友の会の活動が居場所づくり・人とのつながりに大きく貢献していると思われ、精神賦活・社会性の維持にとても効果があると思うのです。

最後３つ目は、作業療法士を含むリハビリ職種の職域拡大につながる点です。我々リハビリ職種は看護・介護職と同様に、体の不自由な方に関わる仕事です。そのため体力は仕事に大きく左右されます。私自身休業し、体力が戻らないことが理由で友の会に配属となった経過があります。体の負担を考えると病院や施設での仕事は大きく、それができなくなった時の不安は大きいです。リハビリの専門性をいかしつつ、地域に出て活動ができる共同組織の存在はとても大きいと考え、これから広がっていくことを期待したいです。

所属している組織の概要	
活動地域は、仙台市太白区・若林区・名取市など。構成員数は4,100人。	
TEL 022-248-6702	メール n-shoko@zmkk.org

演題番号　3－2－11

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
岡山	（公財）水島地域環境再生財団 （みずしま財団）	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
藤原（フジワラ）　園子（ソノコ）	事務局長	第３分科会

発表テーマ
地域で取り組む呼吸リハビリ　～公害健康被害予防事業とくらしきCOPDネットワーク～

内容（発言要旨）

【背景】
・公害認定患者は高齢化し、QOLが低下している。2007年度高齢認定患者のためのリハビリテーションの開発が、大阪の公害地域再生センターが中心に実施され、倉敷医療生協の水島協同病院の医師・理学療法士・検査技師等が関わってきた。
・1974年制定の公害健康被害補償法は法改正により1988年に新規認定が打ち切り。旧公害指定地域で新たな患者が発生しないとはいえず、（独法）環境再生保全機構、48自治体が実施する公害健康被害予防事業が取り入られた。
【目的】
・地域住民のCOPDの予防・早期発見を目的に、2008年からみずしま財団が調整役となり、倉敷医療生協、倉敷市保健所、倉敷連合医師会が構成メンバーの「ぜん息・COPD検討会」を立ち上げた（2015年に「くらしきCOPDネットワーク」と改名）。
【内容】
・「息切れとうまく付き合うコツ、教えます」と名付けた呼吸ケア・リハビリ講座を実施。理学療法士等が講師となる体験講座、愛育委員・保健師と協力した肺年齢測定、フライングディスクやスポーツウエルネス吹矢体験を取り入れて、地域で展開している。
【結果】
・多様な立場が協働することで、コロナ禍の中でも中止せずに実施できた公害健康被害予防事業として注目されている。

所属している組織の概要	
倉敷市水島は人口９万人。1960年代大気汚染公害により呼吸器疾患に住民が苦しみ、約4,000人が公害健康被害補償法の認定を受けた。倉敷公害訴訟の解決金の一部を基金に患者らが2000年にみずしま財団を設立、環境再生のまちづくりが進められている。	
TEL 086-440-0121	メール fujiwara@mizushima-f.or.jp